

## 検証授業3 比嘉頼子 教諭（豊見城市立長嶺小学校）

去る1月22日(金)に、後期教育研究員 比嘉頼子教諭の検証授業を豊見城市立長嶺小学校で行ないました。

小学校2年道徳で、新しい道徳の授業への展開に向けてモデルとなる授業作りへの挑戦でした。授業の冒頭で、比嘉教諭自作の紙芝居「みよばあちゃんのしあわせ」の読み聞かせを行いました。沖縄戦で片腕を失った、みよばあちゃんに孫のかな子は「アメリカ兵が憎くないの?」と問う、みよばあちゃんは「アメリカ兵が憎いのではないよ。悪いのは、戦争だよ。ばあちゃんは、みよこがいるだけで幸せ、生きていればなんでもできる。生きていだけで幸せなんだよ。」と、答えます。そして、児童に「みよばあちゃんの幸せは、どんなことだと思いますか」と問い、「自分タイム」でゆっくりと考えさせた後、グループで意見を交流する「グループタイム」、グループでの意見をまとめて発表する「全体交流タイム」を行い、命の学習をして、考えたことをキーワードの「大事だと思ったことは」「これまでの自分は」「これから大事にしたいことは」を使ってまとめる「ふり返りタイム」でワークシートへの記述をさせました。その後、終末で担任が「命の大切さ」を伝える話をして、授業を終えました。学級の子どもたちは、発表の仕方や聴く姿勢が大変すばらしく、命の大切さについて一生懸命考えて発表している姿が印象的でした。

指導講師の甲斐英児校長先生（豊見城市立座安小学校）からは、「この検証授業は、新しい道徳の流れをつかんで、新しい道徳の授業を作り上げようとする試みの授業で、その手立てとして、教材の開発と意見交流の場の設定の2つがあります。3つの視点で振り返ってみると、1つめは自作教材のポイントを、みよばあちゃんの13歳の辛さを今は幸せであるという心の変化として押えています。2つめは、道徳的価値と向き合うことを意見交流の場の設定において、価値の焦点化が図られています。3つめが授業の学びの評価です。ワークシートは書かせることの視点を明確にし、道徳的価値の自覚を促すとともに、テーマとして掲げた子どもの姿の変容が見とれるようにと工夫されています。さらに授業では振り返りにももう少し時間をおくと更なる価値の自覚を促すことができると考えます。45分で完結できなかったと授業者は話していましたが、道徳は道徳の時間だけではないので、話したりない分は、担任であるメリットを生かし、いろんな場面を捉えてお話してください。この授業は、新しい道徳の授業の大きな1歩となる素晴らしい授業でした。」等の指導助言をいただきました。

長嶺小学校の知念校長先生、多くの先生方に授業参観をしていただきました。全校体制で頼子教諭の研究を支えてくださっていることが感じられる検証授業でした。連携大学の琉球大学の学生も5名参加していました。

この検証授業で小学校は終了です。今週は、中学校理科の検証授業と幼稚園の検証保育が予定されています。

## 【研究テーマ】

〈小学校道徳〉

児童が主体的に取組み、自らの考えを深める道徳授業作り  
～心に響く教材の開発・活用と意見交流の場の設定を通して～

## 【研究仮説】

道徳の授業において、心に響く教材の開発・活用や意見交流の場の設定を行えば、児童が学習に主体的に取り組み、自らの考えを深めることができるであろう。

## 検証授業を終えて（比嘉頼子 教諭）

ついに検証授業の本番を迎えました。子どもたちには、「素晴らしいみんなの噂が伝わって、たくさんの先生方が見に来るよ。楽しみだね。」と話していました。子どもたちは、精一杯、がんばってくれたと思います。自分なりに一生懸命考え、勇気を出して意見を言ったり、発表したりする姿に、心を打たれました。子どもって凄いな、偉いなと心から思うと同時に、教師になってよかったなどと改めて思いました。反省点は、時間をオーバーしてしまったことです。しかし、甲斐先生や所長、指導主事の先生方、研究員、学校の先生方の励ましを受け、ここまでがんばることができたので、皆さんに心から感謝しています。

研究会では、皆さんから、色々な意見が聞けて嬉しかったです。さらに、甲斐校長先生から、「新しい道徳の授業のモデルが示せた。本当にいい授業の流れだったと思う。」とのお言葉が聞けて、涙が出そうになりました。

また、所長から、心温まるお褒めの言葉を頂き感動しました。大変なことも多々ありましたが、がんばってきてよかったと心から思えました。教え、導いて下さる先生方と助けてくれる仲間がいる。私は、とても幸せです。



写真1 検証授業の様子



写真2 検証授業研究会の様子



写真3 長嶺小学校にて